
ENCHANTER ~たった1つのネガイ~

奏音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ENCHANTER ～ たった1つのネガイ ～

【Nコード】

N0021H

【作者名】

奏音

【あらすじ】

「どーせ、五年前から何も変わってないわよ！！どーせ、子どもですよ！！」外見年齢15歳、精神年齢20歳…なハズの彼女は戦います！願いを叶えるために、神様をギャフンと言わせるために！！と、いう訳で協力しなさい！！基本シリアス、なのにギャグ！破天荒な彼女は被害者な彼を連れて旅に出る！世界の真実を暴露するファンタジー、ここに開幕！

第零旋律

どれだけ願っても、もう無駄なんだ。

君の傍に俺はもう、いないから。

もう会えるわけが、ないのだから

会いたい。

なんで

私と貴方が離れなければならなかったの

貴方は何も悪くない。

悪いのは、世界なのに

もう一度、言いたい。

『愛してる』

それだけを

もう一度、

貴方（君）の傍で

それが

私（俺）のネガイ

プロローグ

この世界、『フェイリアル』には

たった1つの、だが絶対に犯してはならない最大のルールがある。

『【混血】を産み出すな』

そのルールは、どうして犯してはならないのか、誰も分かってはいなかったが、創世記から守られ続け、

世界は繁栄に包まれ続けていた……

だが、今から20年前、そのルールを犯した者達がいた。

その者達のせいで世界は混乱と狂喜に包まれ、ルールを犯した者達は犯罪者として神によって裁かれ、世界は救われた。

世界を混乱と狂喜に包んだ犯罪者達の名前は

魔族を治める王、

大絶魔王

ルシフェル・レオン・ルツ・フォストレア

エルフ族を治める女王、

風の愛娘

ティセア・セリティス・ルイン・シルティア

この2人の純粹すぎる愛と

愚か者達の、力を欲する欲の醜さから産まれた

最初で最後の、二度目の悲劇

それが、もう1つの悲劇を産んだ

それを知った悲劇の中心人物達の悲しくも、それでも力強く、愛に溢れる願い

夢を視るための、彼らの悲しい旋律が

聴こえますか？

願いの為の、

彼女らの決意の歌が

届きましたか？

それが聞こえるのなら、それは物語の奇跡と始まり……

そして、終演の始まりだった……

ENCHANTER 〽 たつた1つのネガイ 〽

NEXT PRELUDE
『クロノスの森の遺跡編』

第一旋律『クロノスの森の遺跡編1』

「じゃあイヴ、準備はいいか？」

花が咲き乱れる花畑で左目を隠した鳶色の髪の青年が魔方陣を書き
終え、金髪の少女に微笑む

「うん。ちゃんと指輪だって用意したもん」

少女は掌に握られていた2つの指輪の1つを青年に渡した。

「じゃあ始めるぞ」

「うん。我が儘を聞いてくれてありがとうね」

「別に、これしとかないと納得できないしな。」

そう言つて、魔方陣の中にお互いの姿を確認するように座り、青年
と少女は呪文を唱え始める

『我等、古の契約に則り、今ここに契約をする』

呪文に応えるように魔方陣は輝き、それを確認した青年が少女の左
手の薬指に指輪をはめながら、呪文を紡ぐ

『我等の肉体が滅ぼすと、傍に居ることを誓い、今誓約をたてる。』

『我が名、セドリツク・ペスパー』

『我が名、イヴレスカ・アーヴィング』

『に誓い、我等は全てを共有す………』

「とまあ、これが五年前の話」

酒場のカウンターでココアを飲みながら、金髪の少女、イヴレスカ
が隣にいた男性に話終わった。

「あり得ないだろ」

男性はそう言い、

「確か、君が15歳の時の話だと言っていたが…」
イヴレスカの胸辺りを見て

「五年の月日経っているとは思えな

「うっさい!!」

ドガッ

「どーせ、胸無いよ!てか、五年前から身体的成長なんてしてない
もん!!」

イヴレスカは20歳とは思えない幼さで、着ている服も、少女のよ
うで男性の言い分も分かりたい。

「意味が分からない…」

「私だって分かんないんだって!!」

そう言っつて男性を両手が叩きながら叫ぶ

第一旋律『クロノスの森の遺跡編3』

「分からない?! 私は最低な神様に喧嘩売られたの!! 売られた喧嘩は買う! 常識でしょう?」

「てか、なんで神様に喧嘩売られてんだよ。その喧嘩、お前にメリツトあんのか?」

「婚約者捕られてんの! だから取り戻す為に旅してるんじゃない!」

男性は「知らねーよ」と言いたかったが、やめた。これ以上変な事を言うとまた被害に遭う。

「何? 神様と三角関係で恋人の取り合い?」

「全然違う!!」

「じゃあなんで?」

イヴレスカは俯きながら言葉を紡ぐ。身体を震えさせ、衣服を握る手に力を込めながら

「あいつは……セドの存在が罪って……言っ……、セドは私を

……守る為にあいつと戦って……私のせいで負けて捕まって……

……」

「……それから?」

男性はイヴレスカの衣服を握る手を握り、優しい声で宥めさせる。

「……分からない。後は、何も覚えていないから……。」

「でも神様との喧嘩の売り買いは覚えている?」

「……探せって……、欠片を……。」

第一旋律『クロノスの森の遺跡編4』

「……………欠片？」

男性は首を捻り、考えてみる。

神様との喧嘩で、その必要性はあるのか？

どんなものなのか

一応、歴史、伝説には詳しい方だが、欠片などに関する情報などは全くない。

「それが、全部手に入れば、助かるって、言ったの……………」

「助かる？」

『助けてやる』なら分かるが、何故『助かる』なのだろうか。

わからない。

「だから、協力して？私だけじゃ……………無理、だから……………」

イヴレスカが男性の服の裾を掴み、弱々しい声で、許しを請うような声で言う。

「……………」

そんな、顔されたら断れないだろうが……………。

「……………分かった。協力…する。」

男性がイヴレスカの頭を撫で、そう言うと、イヴレスカは微笑んだ。子どものような、暖かい笑顔で

「で、その欠片はどこにあるんだ？」

「えっと、一番近い所は、クロノスの森にある遺跡……………かな？各地の遺跡にあるって言うてたし……………」

「だったら、さっさと行くぞ？東方の国の詞に『善は急げ』ってい

うのがあるからな」

「ぜ、ぜんはいそげ……？な、何？それ……」
イブレスカが子どものように首を傾げ、男性を見つめる。

「簡単にいえば、『早めに行動するといい』だ。……多分」

「ふー……ん」

それでもまいち分かっていないのか、何度も何度も復唱し、回りを歩く。

「とりあえず、さっさと行くぞ。早く取り戻したいんだろ？」

「う、うん！」

第一旋律『クロノスの森の遺跡編4』（後書き）

次で、やっと物語の意図が分かると思います…多分。

そして、男性の名前も発表できたらなーと思います！（未だに決ま
ってません。）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0021h/>

ENCHANTER ~たった1つのネガイ~

2010年10月13日07時56分発行